

日本藻類学会第42回大会ワークショップII 「女川視察と乾しノリ生産加工施設の見学会」参加記 福岡将之

日本藻類学会第42回大会の藻類学ワークショップは採集会と見学会の2パターンが開催されました。私は今回、女川町の復興状況の視察と東松島市にある震災後に建設された乾しノリ（皇室献上ノリ）生産加工施設の見学会に参加しました。

当日のメンバーは、ワークショップ参加者6人に加えて、ドライバーを務めてくださった東北大学の青木先生、スタッフとして参加してくださった青木先生の研究室の学生さん3名の計10名でした。まずは、JR陸前小野駅に併設された「空の駅」に立ち寄りしました。「空の駅」では、靴下で作られた猿のぬいぐるみである「おのくん」が売られていました。「おのくん」は、東松島市の「小野駅前応急仮設住宅」に避難された方々の元々のお住まいであった奥松島の復興を願って生



空の駅



海苔工場見学



海苔付け機械



海苔養殖場見学

まれたキャラクターだそうです。

その後、東松島市の乾し海苔工場に向かいました。大きなタンクで採集した海苔を洗う様子や、全自動の海苔付け機、加工場を見学させていただきました。特別に海苔の試食もさせていただきましたが、説明頂いた業者の方曰く、旬はそろそろ終わりとのことでしたが、とても香りが良く、おいしい海苔でした。お昼ご飯は、東松島市のちゃんこ萩乃井で海苔を練り込んだ「のりうどん」を頂きました。

お昼ご飯の後は、宮浜で海苔の養殖場の見学に向かいました。現役の漁師の方が、実際に漁船に乗せてくださり、洋上に設置してある海苔の養殖生け簀を間近で見せていただきました。間近で生け簀を見たのは初めてで、その迫力と広大さに驚きました。また、沿岸に生えている立派なワカメやホンダワラ類の藻場を見つ、案内役の漁師の方から東日本大震災の津波の状況や震災前後の地形の変化のお話をお聞きし、改めてその被害の大きさを思い知らされました。東日本大震災当時高校3年生だった私からすると、テレビで放映されていた津波の様子がつい最近のことに思い出されますが、現場にいたわけではなく、どこか遠い土地の出来事のようにも感じていました。ですが、実際に被害に遭われた環境やそこに暮らす方々のお話を見聞きすることで、その被害の大きさを改めて思いさらされました。

今回のワークショップでは、日本人である私たちに身近な海苔という食品をさらに深く学ぶことができました。それに合わせて、東日本大震災の被害の大きさと東京ではあまり報道されなくなってしまう復興の状況と現実を知ることができたのは、とても大きな経験でした。

本ワークショップを運営してくださった青木優和先生をはじめとする東北大学のスタッフの皆様、共にワークショップを体験した参加者の皆様、本当にありがとうございました。

(南三陸町ネイチャーセンター準備室)